

(様式7)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800265		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ (高津)		
所在地	島根県益田市高津町四丁目1番16号 (電話) 0856-23-7777		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月24日	評価確定日	平成21年10月19日

【情報提供票より】 (21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤11人, 非常勤8人, 常勤換算	11.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000. 45000. 51000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	210 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	7名	要介護2	4名
要介護3	4名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 88.9 歳	最低 81 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院、松ヶ丘病院、中島歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海が見える大きな門構えの旧家を利用した家庭的雰囲気のグループホームである。個別ケアと利用者の自己決定を尊重し、なんとなく過ぎていく、落ち着いた日常を大切にしている。ターミナルケアを実践した経験を持っており、職員は利用者には出来るだけ最後まで過ごして頂きたいという思いを持っている。ケアの向上を目標に研修を積んでおり、自己評価・外部評価を積極的に活用し、より良いホーム作りを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「地域とのつきあい」「家族意見の反映」「介護計画」「入浴」は改善されている。自己評価による改善計画シートも作成され、利用者主体の夕食時間への変更、権利擁護・虐待の防止について理解と実践・情報の記録についての学習などに取り組んでいる。 自己評価・外部評価をケアの振り返り、サービス向上の良い機会と捉え職員全員で評価の意義を認識している。ユニット毎に数項目ずつその日に勤務の職員で話し合い、不十分な項目は職員会議にかけて作成した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の意義を理解しテーマを決めて2ヶ月に1回開催している。ホームの取り組みや状況報告を行い、ホームへの理解を深めている。成年後見制度など会議で出た意見は運営に反映されている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時に出的意見、要望等はすぐに話し合い対応している。年に1回法人全体で利用者家族に無記名でのアンケートを実施し、そこで出た意見・苦情は本部でまとめ各ホームに全て伝え、職員会議で話し合い改善に繋げている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会へ加入し回覧板を回したり、地域の草刈等がある時は地域の一人として参加をしている。傾聴ボランティアや音楽、習字のボランティアとの交流もあり、利用者は地域の方に見守られて暮らしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの生活に近い環境作り、顔なじみの人たちとの関りを大切にする事を盛り込んだ、地域密着型としての理念を確認しあい継続して掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員には必ず理念の説明を行っている。毎月の職員会議では理念にそったケアを実践出来ているか自己評価等にて振り返り改善に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、敬老会、盆踊り、草刈り等の行事に参加している。傾聴ボランティア、音楽ボランティア、習字のボランティアとの交流がある。地域の人々に見守られて暮らしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合いながら自己評価を行った。それぞれのユニット毎に取り組み、日頃のケアを振り返り改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みや状況報告等により、理解を深める一方、話し合いの中から行政の担当者に成年後見制度利用の相談窓口になって貰うなど、討議内容は運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	統括部長が課題等ある時には担当者と報告、協議し、ホームに伝達している。またホーム長も手続きに市の窓口に出向いた時には助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態は、状況によって家族に随時報告を入れている。また、毎月のおたよりでホーム内での様子や職員の異動を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度法人全体の利用者家族に無記名のアンケートを行い、統括部長が集計結果を各ホームに報告、改善に繋げている。また、面会時等に出た意見は運営やケアに反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく異動はないよう努めている。異動があった時は入居者に説明紹介をし不安を与えない配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に沿って職員の育成が図られ、段階に応じた研修が受けられるよう配慮している。職員会議ではその都度必要と思われる資料を用意し勉強している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に統括部長が参加し情報は各ホームに伝達されている。市内のグループホーム職員の交流会に参加し、食事援助をテーマに話し合い、朝食の見直しをした。	○	職員レベルでの交流をますます進めて頂きたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	統括部長が相談・受付を担当し、入居予定のホームの管理者と事前訪問している。体験入居を経て契約、入居と段階を踏むことで、徐々に馴染みながらサービスが受けられるようしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	忙しくしていると「手伝うから、あんたは違う仕事をしんさい」と助けて頂いたり、食事作りの中で相談したり、教えて貰ったりしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生き方を尊重し、日々の暮らしの中で表情や言動から思いや希望の把握に努め情報を共有している。夜勤の時ゆっくり思いが聞ける。困難な場合は家族を交え検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れた暫定計画を立て、1ヶ月後アセスメントを持ち寄り、話し合いながら介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、入浴、食事、精神面などの項目に沿って評価を行い、利用者の変化に応じた介護計画の検討を行っている。状況変化のある時はユニット毎に工夫し、現状に即したケア内容を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診等、利用者の家族の状況に応じて柔軟な対応を心掛けている。糖尿病が悪化した利用者に、関係者とカンファレンスを行った上で看護師によるインスリン注射を開始した。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院に継続受診支援をしたり希望により主治医を決めている。緊急時に備え普段からかかりつけ医に身体状況の報告をし指示を仰いでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算をとっている。できるだけ早い段階から話し合い、家族の安心と納得が得られる様努めている。ターミナルケアの勉強会を持ち、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴の利用者へのトイレ誘導時の声かけ等難しい事もあるが、一人ひとりにあった話し掛けや対応をしている。不適切な声かけがあった時にはホーム長が指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し希望に沿うようにしている。夕食の時間を利用者主体に考え、シフトの変更により、午後6時以降に下げ、体調や気分を考慮し食事時間にも幅をもたせている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加できる利用者は少なくなっているが、食べたいと言われた料理を作ったり、出来ることをしてもらっている。朝食はご飯とパンから選べる。職員も一緒に同じ食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた支援は難しいが出来る限り本人の希望に沿うよう努めている。日曜日でも入浴できるように取り組んだ。チェック表を作り、拒否される方にもタイミングや声かけを工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ジャムを塗る、卵の皮をむく、生け花、洗濯物たたみ、掃除等、利用者の力が発揮できる場面づくりをしている。希望でドライブや買い物を楽しんだりしている。	○	自分からやりたくなる楽しい場面を多く作って頂きたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体機能の低下や職員の人数により以前より外出しにくくなっているが、利用者に声をかけ出来る限り散歩、買い物、ドライブや自宅訪問に出かけるよう努めている。	○	利用者の体調や希望を考慮し、ホームの中だけで過ごさず、レベルにあった外出支援を期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い人に対し日中は同行している。ドアに鈴をつけたり、竹のスタレを置き動向がわかるようにしたり、家族の協力を得て外泊をするなど対応しているが、状況によっては一時的に施錠することもある。	○	鍵をかけないケアの実践のために、利用者への対応の検討や、家族、地域との話し合いを重ねていただきたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施し、地域の人には回覧で知らせ参加してもらっている。備蓄については買い置きでの対応を考えている。	○	自主的な避難訓練の実施と飲料水の確保を望みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を記録し職員間で共有し、状態に応じてプリンや卵豆腐など食べやすい物を工夫している。年1回管理栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事を作る包丁の音やにおいがホーム内に溢れ、風や光が心地良く感じられる。ソファなど利用者が自由に過ごせる場所があり、状況に合わせてつい立てを使用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みにあわせた家具や写真や絵、小物、花鉢などが置かれその人らしい居室の雰囲気がある。仏壇や神棚を持ち込んでいる人もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。